

講義名	対2)心理学概論			授業形態	
担当教員	蜂屋 真	開講期・曜日・時限	前期 月曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生

主題と概要

まず、心理学の歴史、すなわち心理学の研究対象の変遷について講義する。次いで、発達に関してことばの発達と青年期の同一性の問題を、パーソナリティに関してパーソナリティの理論と心理テストについて講義する。さらに、臨床心理学の理論とカウンセリングなどについて講義する。最後に、動機、学習、記憶について論じる。

到達目標

心理学史、発達、パーソナリティ、適応の援助、動機、学習、記憶など心理学の基礎的項目について、理解し説明できるようになる。

提出課題

授業の進行に従って、学生諸君に様々なレポートを書かせる。それを授業に反映し、活用する予定である。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

授業中に書かせたレポートに対して、随時コメントを行う。

評価の基準

授業中に何度か理解度試験を行い、それらの成績の合計で最終評価する。従って、学期末の定期試験を行わない。

履修にあたっての注意・助言他

授業中に何度か理解度試験を行うが、これを予告なしにランダムに行う。従って、授業を欠席していると、単位取得が難しくなる。なお、認定心理士の取得をめざす諸君は、この授業を必ず履修しなければならない。教科書は基礎心理学の教科書と同一である。

教科書

.心理学要論.	福田由紀編	培風館	2100	4563052159
---------	-------	-----	------	------------

参考図書

その他

関連資料は授業中に配布する。

授業計画

1. 心理学とは：構成主義、行動主義、認知主義（1章）
2. 発達（1）：発達の原理、胎生期、乳児期、児童期（11章）
3. 発達（2）：音声知覚、聴語、内言、外言、自己中心語（11章）
4. 青年の心理（1）：青年期、身体的変化、発達課題（10章）
5. 青年の心理（2）：境界人、自我同一性の確立・拡散、モラトリアム期（10章）
6. パーソナリティ（1）：V G 性格検査の実態・採点・解説（12章）
7. パーソナリティ（2）：類型論、特性論（12章）
8. パーソナリティ（3）：評定尺度法、質問紙法、作業検査法、投影法（12章）
9. 適応の援助（1）：ロジャース、フロイト、ユング、アドラー（13章）
10. 適応の援助（2）：カウンセリング、精神分析、行動療法（13章）
11. 欲求と動機づけ（1）：生理的動機、内発的動機（8章）
12. 欲求と動機づけ（2）：社会的動機、動機の階層（8章）
13. 学習（1）：本能行動、比較行動学、刷り込み（5章）
14. 学習（2）：学習行動、古典的条件づけ（5章）
15. 記憶：感覚記憶、短期記憶、長期記憶（6章）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業内容は、授業計画に付された教科書各章に対応する。1回の授業につき、予習として授業内容に対応する教科書の箇所を読んでおくこと（2時間）、復習として教科書を活用し、さらに関連書籍を学習すること（2時間）が求められる。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

心理コースのディプロマポリシーは2つあるが、その一つは、「人間の精神機能と心理学の研究法の知識を有し、さまざまな場面に直面する人間の心理と行動を科学的に分析し予測することができる」である。対2) 心理学概論の授業は、人間の精神機能の知識を提示しており、このディプロマポリシーに関わっている。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

対2) 心理学概論は対面授業である。しかし、学生の科目履修状況により、オンデマンド授業になる場合がある。オンデマンド授業の場合、授業内容は上述したシラバスと同一である。